

## ■効果の見える治水事業

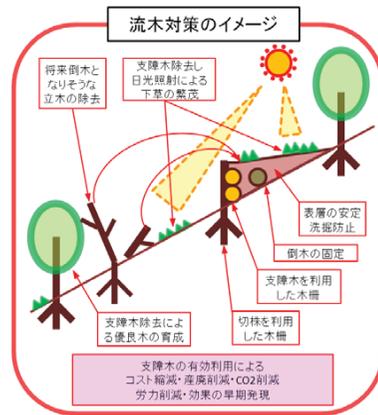
### 高知県高岡郡津野町 白河瀬川通常砂防事業 「高知県で実施した『里山砂防』について」



高知県土木部防災砂防課長 加藤 仁志

高知県高岡郡津野町の白河瀬川通常砂防事業におきまして、砂防堰堤工事とあわせて、森林整備の行き届いていない流域内に存在している、将来流出が予測される倒木や枯木などの「支障木」の除去や、その切株や切除木を利用した木柵を設置し、斜面を安定させることによって、表層土や倒木等の流出を削減し、土石流被害を軽減させるための砂防事業を実施しました。

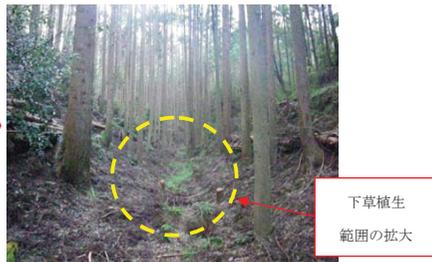
支障木を流域外へ搬出するのが流木対策には最良と思われませんが、莫大なコストと労力と時間が必要となります。そこで、流域内の切株や支障木を有効利用した木柵を設置し、斜面を安定させることによる流出土砂の削減や、木柵の背後に、倒木や落下した枝葉を流さないよう配置することによるコストや労力の削減、搬出する際に生じる産業廃棄物処分費の削減により、コストと労力などを削減した事業効果の早期発現ができたと思われまます。また、整備後の現地調査では、下草植生範囲の拡大が確認でき、表層土の流出削減やCO<sup>2</sup>の削減にもつながっていると思います。



間伐等の森林整備と一体となった砂防事業が進むことによって、中山間地域における林業事業の活性化、雇用促進、間伐材の流通、山林の健全な保全、良好で安定した水源の確保等を検討していき、地域の住民が、安全で安心できる生活空間を少しでも早く創出することを実現させていきたいと思ひます。



整備前



整備後  
間伐による日光増大  
下草植生範囲の拡大

## 源流点の郷から



高知県 津野町長 池田 三男

津野町は、東に新莊川、西には四万十川の清流が流れ両河川の源流点を擁す自然豊かな清流の郷であります。

なかでも、四万十川流域の景観や建造物及び暮らしや歴史文化が、平成21年2月に、流域の5市町がそろって国の重要文化的景観として指定を受けました。この「日本最後の清流」と呼ばれる四万十川の最上流部の津野町では景観や河川環境を守るため道路改良や農地整備等にコンクリートから石積工法や自然巨石で自然護岸に配慮した工法を取り入れる一方で、水質浄化対策では高度処理合併浄化槽を町営で推進しています。



「桂地区・布施ヶ坂の茶畑」



「貝ノ川地区の棚田」

新莊川流域では、最近問題になっております葦が河原全域に広がり子供たちが水辺に親しむ機会が減少していることから、葦を撤去して本来の河原を取り戻す事業を推進し、河川環境の整備に努め、春から秋にかけて特に夏場にはたくさんの親子さんたちが訪れて水泳や水遊び、キャンプを楽しんでいます。

また、津野町全体面積のうち、林野が占める割合は89.5%であり、森林の荒廃による溪流の土砂の流出等の危険から麓で暮らす住民の安全安心な生活を守るため治山や砂防工事を県に実施していただきながら、この森林の適正な整備を図る目的で、「環境先進企業との協働の森づくり事業」を進めるため、高知県と環境先進企業の3者で「龍馬の森パートナーズ協定」を結び、間伐の促進によるCO<sup>2</sup>吸収や協定森林を活用した体験型環境教育や研修活動を行い、森林の持つ多面的機能の発揮や水源涵養の保全にも努めています。

このような中、平成17年に河川の源流域に位置する自治体が、森林環境保全や源流の郷への国の特別支援対策を求めて、「全国源流の郷協議会」が設立されております。



「四万十川源流点」

この協議会では「全国源流サミット」が開催され、それぞれの町や村と情報交換を図り環境保全や暮らし歴史文化の保存発展に努めております。津野町も平成22年に正式加盟しており、本年は津野町での「全国源流サミット」を10月に開催する運びとなっております。全国に情報発信をすべく現在準備を進めています。

ぜひ皆様も源流の郷にお越しください、お待ちしております。